



菩提樹



第 61号

編集室 〒794-2114
愛媛県今治市吉海町
名2916-2 高龍寺内
TEL 0897-84-2129
FAX 0897-84-4495
Eメール chiho@mg.pikara.ne.jp
責任者 鴨井 智峯

暑中お見舞い申し上げます 高龍寺 院家

今年も暑い夏を迎えましたが、常態化して行くように思える気候変動、また、それによる自然災害は目を覆う思いが致し、昨年夏のような大きな災害が起こりませんようにと願う毎日です。

ところで、高龍寺では昨年大変驚くべきことが舞い降りました。それは神戸在住の熊野スズ様からの遺贈の申し出です。熊野様とは 20 年前に知り合いましたが、4 度目にお会いしたのは彼女のお通夜の席でした。そして葬儀の後に任意後見人の方から、18 年前に作成された遺言状を手渡され、今回の遺贈となりました。生前中その事に関して一言も仰らなかったことにも驚きましたが、その金額にも驚き、そして寺総代さん達と一緒に感謝申し上げます。



◀この遺贈は熊野スズ基金と名付け、山門の新築を行い、残りを基金とすることに致しました。

高龍寺施餓鬼法要

8月18日(日)午後6時



鴨井 智峯

以前に島根県の大根島に旅行しました時に、何となく買った牡丹に興味を持ち、新種などを中心に毎年少しずつ増やし育てています。

しかも鉢植で育てることにしましたので、11 月から3月上旬の冬眠をしている期間以外は毎日世話が欠かせません。まず牡丹には大輪を咲かせるために、肥料や摘蕾、芽カキが欠かせません。そして丈夫な幹を育てるための剪定、そして鉢で育てるために欠かせない日々の水やりなど、まるで子供を育てるように手が掛かる作業が続きます。

牡丹の開花期に避けたい降雨と直射日光を、鉢で育てることで移動が出来ますので開花期を長く伸ばすことが出来るのです。一年間世話を重ね、大輪を咲かせてくれた時には全ての苦勞が報われる気になり、心踊る2週間なのです。

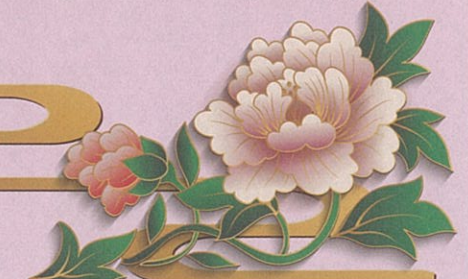
この大輪を咲かすため牡丹は、古来より華の王様と呼ばれて来ました。植物の王様が牡丹なら、動物の王様は百獣の王といわれる獅子です。映画の中で高倉健さんが背中に背負っている唐獅子牡丹は、動物と植物の両方の王様を現していたのでした。

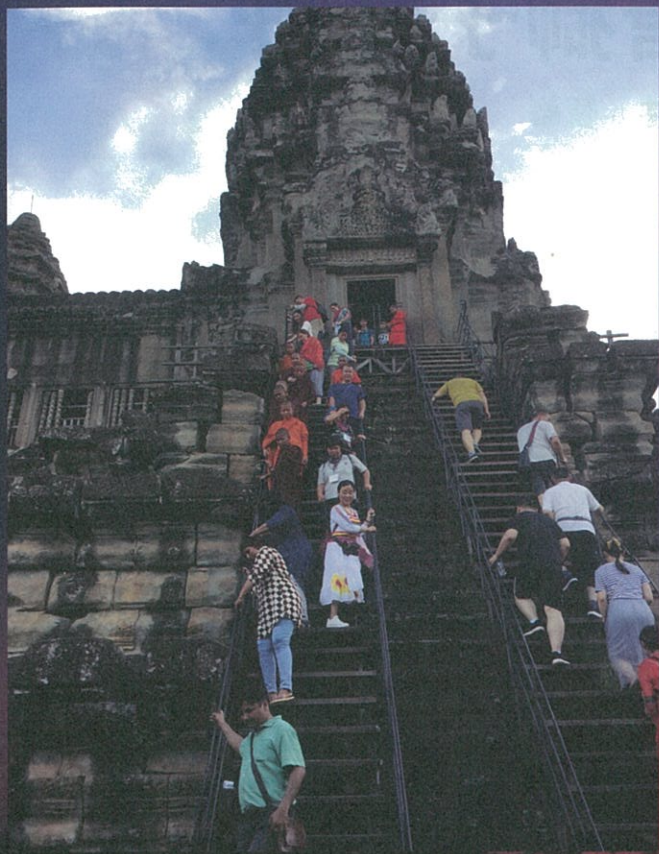
実は、この唐獅子牡丹には別の意味があることをご存知でしょうか？「獅子身中の虫」という言葉がありますが、この意味は自分より強いものがない百獣の王の獅子には外敵はいません。ならば獅子は何も恐れるものは無いのかと言えばそうではありません。確かに外敵はいませんが、獅子は自分のお腹の中にいる虫によって倒れる恐れを持っていて、華の王様の牡丹をいただくことによって華の王様の力を頂き、延命しようとしている姿を現しているのが唐獅子牡丹の絵の意味で、そこから生まれた言葉が「獅子身中の虫」だったのです。

ところで、私が住職を勤める高龍寺の客殿の大改修工事を致しました。その時に大玄関の屋根の上にあった瓦の阿吽の獅子を下ろしたら、獅子には牡丹も描かれていました。お寺にも唐獅子牡丹があったのです。お寺に唐獅子牡丹がある理由は、実はお経に答えが書かれています。

答えは、皆さんがお勤めをする時に最初に称える懺悔文の中に「貪瞋痴」と書かれています。この「貪瞋痴」は「三毒」と呼ばれ、「貪」はもっと欲しいもっと欲しいと足るを知らない貪りの心です。「瞋」は怒りの心で、怒ると血圧も上がるでしょうし、対人関係にも問題を残すことになるでしょう。そして「痴」は正しい判断の出来ない愚かな心のことです。残念ながらこと、この三つは誰の中にもあるでしょう。勿論私の中にもありますが、反対に言い換えたら、生きるためのエネルギーかも知れませんね。

お寺に唐獅子牡丹がある理由は、私達が必ず持つ「三毒」。日々の生活の中で拭っても拭っても埃の様にたまってしまふ「貪瞋痴」の「三毒」を、お寺にお参りに来た時には、獅子が牡丹の華の力を頂いて、お腹の中を綺麗にしようとするように本尊さんの前に座り、心を静め、綺麗にしてお帰り下さいとのメッセージなのでした。





▲アンコールワット最上階に登る階段



▲1886年に建てられたクメール様式の王宮



▲バンテアイ・スレイ、女の岩と呼ばれた寺院



▲タブローム寺院と絞め殺しの木



▲『天空の城ラピュタ』のモデルといわれるベンメリア



▲アンコールトムの壁画近くに佇む僧侶たち

アンコールワットがあるカンボジア

高龍寺住職 鴨井智峯

6月3日より一週間、総勢21名でカンボジアを旅しました。カンボジアは東にベトナム、北にラオス、そして西にタイと接する人口1500万人の小さな国で、首都はプノンペンと言います。

福岡空港から出国した一行はタイのバンコクまで5時間の空の旅を過ごし、そこから乗り換え約1時間でプノンペンに到着しました。時差は日本より2時間遅れですが、日が暮れた街並みには日中の猛暑の余韻が残る空気で、東南アジアに来たことを身体で確認します。

翌日は王宮やそこに隣接するシルバーパゴダ、そして国立博物館を見学致しましたが、王様が儀式を行う場所や床に銀を敷き詰めたシルバーパゴダの碧玉の本尊様、そして国立博物館に展示されるクメール王朝時代の美しい仏像はどれも素晴らしく、カンボジア人の誇りを感じました。

また、それとは違って内戦による地雷で足を失った人達を多く見かけ、またポルポト政権のもと、多くの知識人を中心とした人達が総人口の25%も大量殺戮された事実はとても悲しい事です。

カンボジア3日目はバスで320キロ移動して、アンコールワットがあるシェムリアップに移動しました。

今回の旅の目的でもあるアンコールワットは、最も訪れてみたい世界遺産といわれるだけあって、多くの観光客が訪れており、カン

ボジアにとって大きな観光資源でもあることを実感しました。そして、日の出前に訪れたアンコールワットの朝焼けは美しく、ここに立つことが出来たことを喜び、来れたことに感謝致しました。

ところでシェムリアップはプノンペンに都が移る前の都があった所で、壮大な規模の遺跡群を見学して周り、当時の反映を想像して驚嘆しました。そしてプノンペンに遷都されて、アンコールトムの遺跡群などは500年以上に渡って人々の記憶から忘れ去られ、密林の中に隠れていた様子を見ると、まるで宮崎駿氏の「天空の城ラピュタ」を見る思いでした。

今年21名の参加で参りましたが、来年は6月8日から13日の予定でインドネシアのジャワ島にあるボロブドゥール寺院にお参り致します。参加希望の方おられましたらご案内させていただきますので是非お申込み下さい。

